

「若者の現状」について

(仮称)若者計画の課題を整理し主要項目等を検討するため、国や本区の統計資料、昨年度に実施した「若者の生活と意識に関する実態調査」の結果等から、若者の現状について集約したものです。

なお、若者の現状については、(仮称)若者計画の第3章に掲載する予定です。

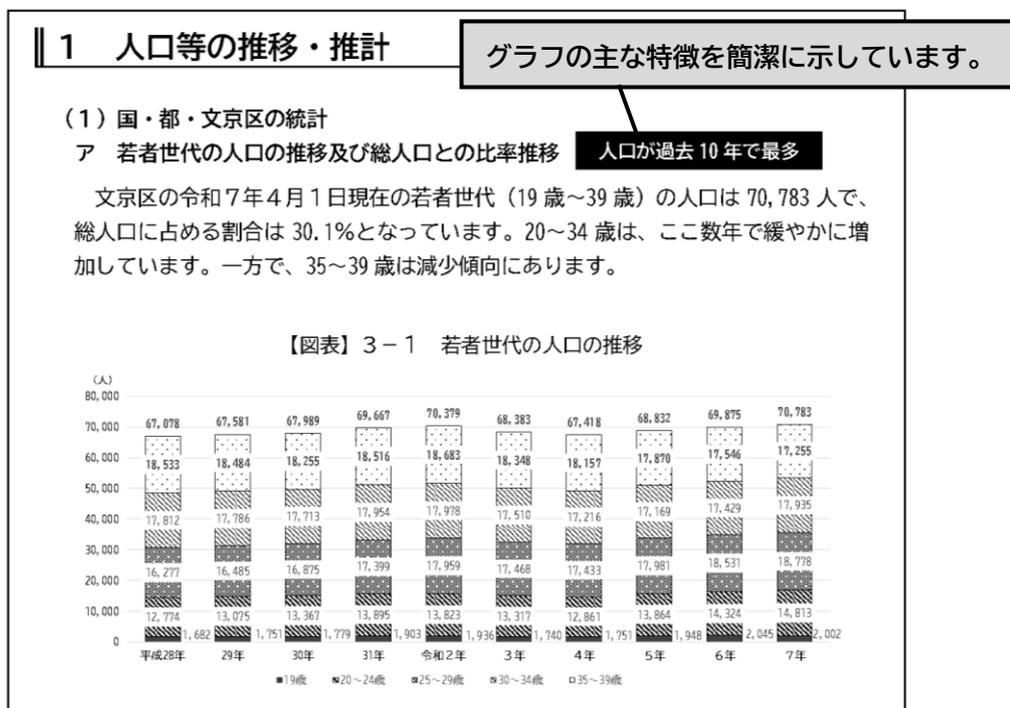
【掲載事項一覧】

分類		図表
1 人口等の推移・推計	(1) 国・都・文京区の統計	
	ア 若者世代の人口の推移及び総人口との比率推移	3-1 3-2 3-3
	イ 世帯類型の推移	3-4
	ウ 人口推計	3-5
	2 若者の生活基盤を取り巻く状況	(1) 国・都・文京区の統計
ア 合計特殊出生率及び出生数等の推移	3-6 3-7 3-8	
イ 年齢階級別未婚率の推移及び婚姻数の推移	3-9 3-10	
ウ 共働き世帯の割合	3-11	
	(2) 若者の生活と意識に関する調査	
	ア 家計の状態	3-12
	イ 国や自治体に求める結婚支援、パートナーシップに関する支援	3-13
	ウ 子どもの人数及び理想の子どもの人数	3-14 3-15
3 困難を抱える若者を取り巻く状況	(1) 国・都・文京区の統計	
	ア 自殺者数の推移	3-16
	イ 15~39歳における無業状態の割合の推移	3-17
	(2) 若者の生活と意識に関する調査結果	
	ア 外出頻度及び外出状況が現在の状態になった期間	3-18 3-19
	イ 現在の不安や悩みごと	3-20

	ウ 相談先に望むこと	3 - 2 1
	エ 日常的に世話をしている人の有無	3 - 2 2
	オ 働いていない理由	3 - 2 3
4 若者の自己 実現を取り巻 く状況	(1) 若者の生活と意識に関する調査結果	
	ア 自己肯定感等	3 - 2 4
	イ 安心できる居場所に必要なこと	3 - 2 5
	ウ 社会参加活動の種類及び不参加の理由	3 - 2 6
		3 - 2 6
	エ 地域への愛着の有無及び愛着を感じる場所	3 - 2 8
3 - 2 9		
オ 区の施策等への意見を伝える方法・手段	3 - 3 0	

【第3章 若者の現状の見方】

本章では、文京区における若者の現状について、各種資料や令和7年1月に実施した「若者の生活と意識に関する調査」から得られたデータをグラフにまとめ、掲載しています。



【若者の生活と意識に関する調査結果を見る上での注意事項】

本区では、若者の生活や意識に係る現状を把握し、若者計画の基礎資料を得ることを目的に、調査を実施しました（令和7年1月実施。区内在住の19～39歳に全数調査。有効回収率20.1%）。

その中で、自身・家庭の状況、普段の生活、家族の世話、仕事、社会とのつながりや区に関すること、将来への希望感、結婚・子育て・少子化対策、若者施策等に関する意見について、実態を把握しました。

- (1) 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数です。
- (2) 年齢層別などのクロス集計は、無回答があるため合計が全体と一致しないことがあります。
- (3) 百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ設問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合があります。
- (4) 複数回答（2つ以上選んでよい設問）においては、%の合計が100%を超える場合があります。
- (5) 表中の「-」は該当する回答がなかったことを示し、「0.0」は集計結果が四捨五入により小数第2位で0.1未満となったことを示しています。

第3章 若者の現状

1 人口等の推移・推計

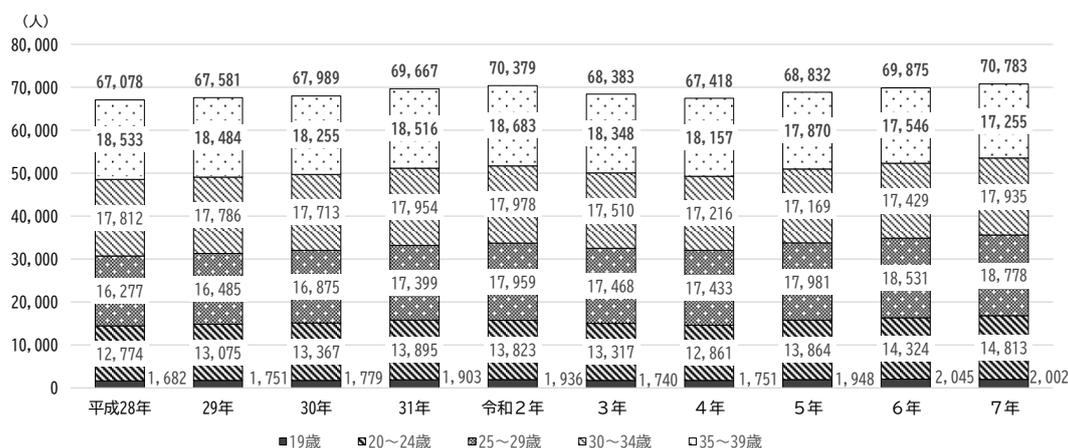
(1) 国・都・文京区の統計

ア 若者世代の人口の推移及び総人口との比率推移

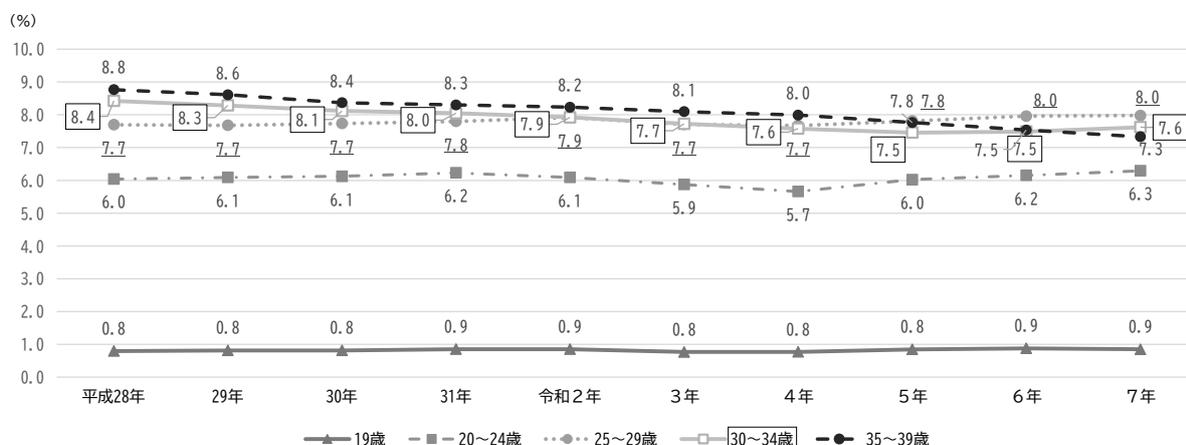
人口が過去10年間で最多

文京区の令和7年4月1日現在の若者世代（19歳～39歳）の人口は70,783人で、総人口に占める割合は30.1%となっています。20～34歳は、ここ数年で緩やかに増加しています。一方で、35～39歳は減少傾向にあります。

【図表】3-1 若者世代の人口の推移



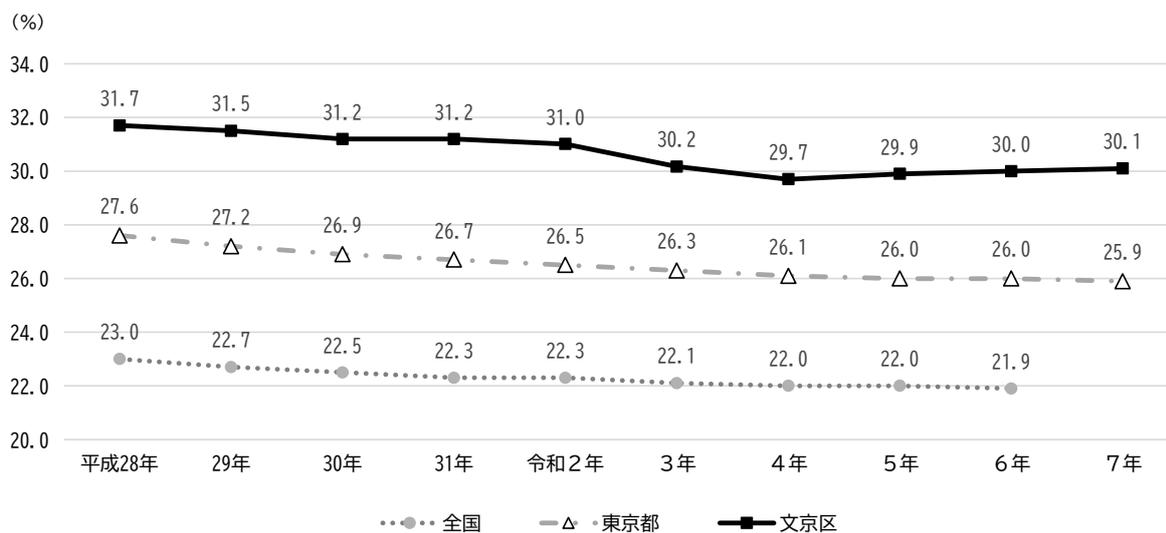
【図表】3-2 若者世代の人口が総人口に占める割合の推移（年齢層別）



資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

文京区の若者世代の比率は、全国や東京都より高いものの、令和3年以降はほぼ横ばいとなっています。

【図表】 3-3 若者世代の人口が総人口に占める割合の推移（国・都・文京区）

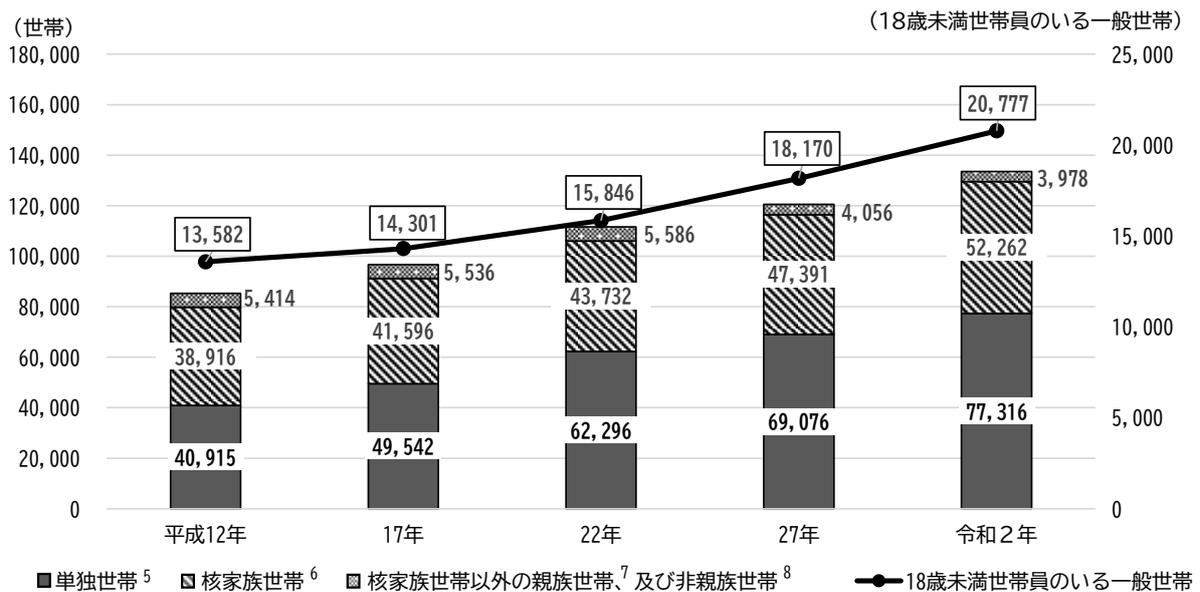


資料：人口動態統計（各年10月1日現在）（全国）
 住民基本台帳（各年1月1日現在）（東京都）
 住民基本台帳（各年4月1日現在）（文京区）

イ 世帯類型の推移 単独世帯と核家族世帯の増加

文京区の単独世帯数は、平成12年には約41,000世帯でしたが、令和2年には77,000世帯を超え、一般世帯¹全体の半数以上を占めています。また、核家族世帯及び18歳未満世帯員のいる一般世帯も平成12年以降増加傾向にあります。

【図表】3-4 世帯類型の推移



資料：国勢調査

1 一般世帯

- ア 住居と生計を共にしている人々の集まり又は一戸を構えて住んでいる単身者
- イ 上記の世帯と住居を共にし、別に生計を維持している間借りの単身者又は下宿屋などに下宿している単身者
- ウ 会社・団体・商店・官公庁などの寄宿舎、独身寮などに居住している単身者

2 単独世帯 世帯人員が一人の世帯

3 核家族世帯

- ア 夫婦のみの世帯
- イ 夫婦と子どもから成る世帯
- ウ 男親と子どもから成る世帯
- エ 女親と子どもから成る世帯

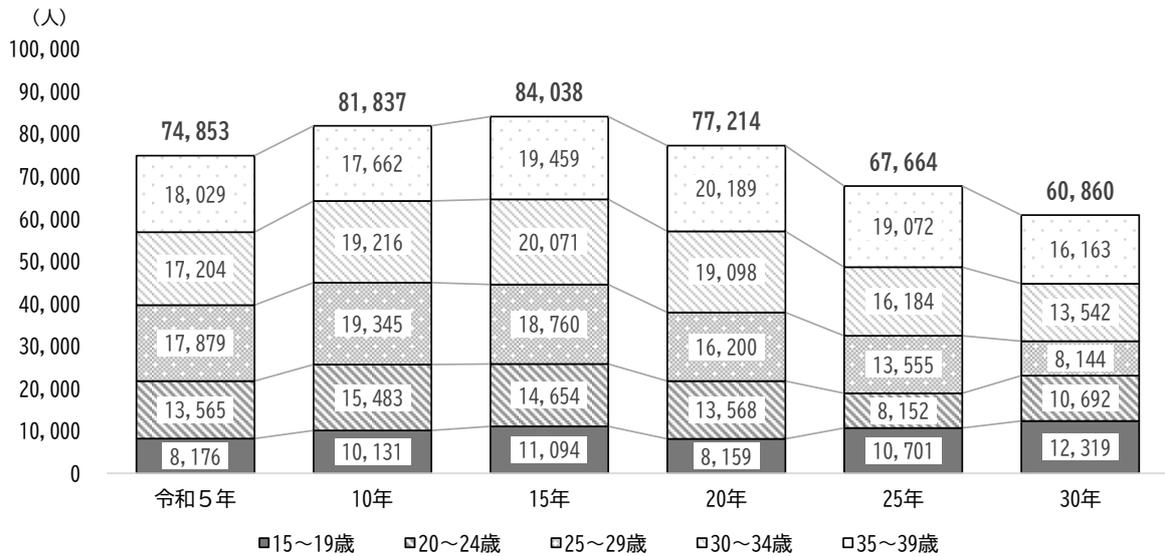
4 親族世帯 二人以上の世帯員から成る世帯のうち、世帯主と親族関係にある世帯員のいる世帯

5 非親族世帯 二人以上の世帯員から成る世帯のうち、世帯主と親族関係にある者がいない世帯

ウ 人口推計 **令和15年がピークの見込み**

「文の京」総合戦略における15～39歳の将来人口推計（区独自推計）によると、令和30年までの人口推計は、令和15年のピークとなるまで増加し、その後減少していくことが見込まれています。

【図表】3-5 人口推計



資料：「文の京」総合戦略

2 若者の生活基盤を取り巻く状況

(1) 国・都・文京区の統計

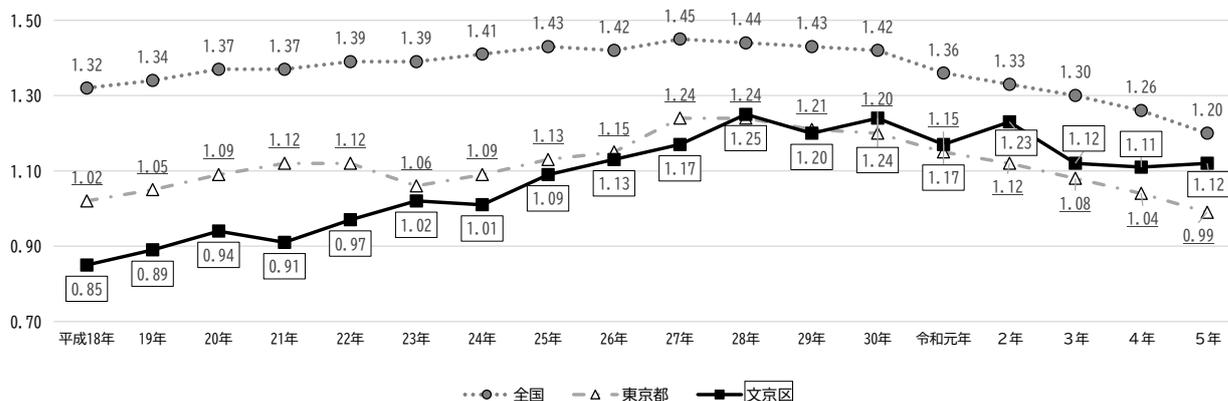
ア 合計特殊出生率及び出生数等の推移

新型コロナの影響を受け減少

全国の合計特殊出生率⁶は、平成24年以降は1.40を超えほぼ横ばいに推移していましたが、近年は減少傾向にあり、令和5年は1.20となりました。文京区の合計特殊出生率は、全国と比較して低い数値で推移していますが、平成30年には東京都を上回り、令和5年は1.12となっています。

一方、文京区の出生数は、平成28年の2,167人をピークに増減を繰り返しながら推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和3年以降大きく減少し、令和5年では1,874人となっています。

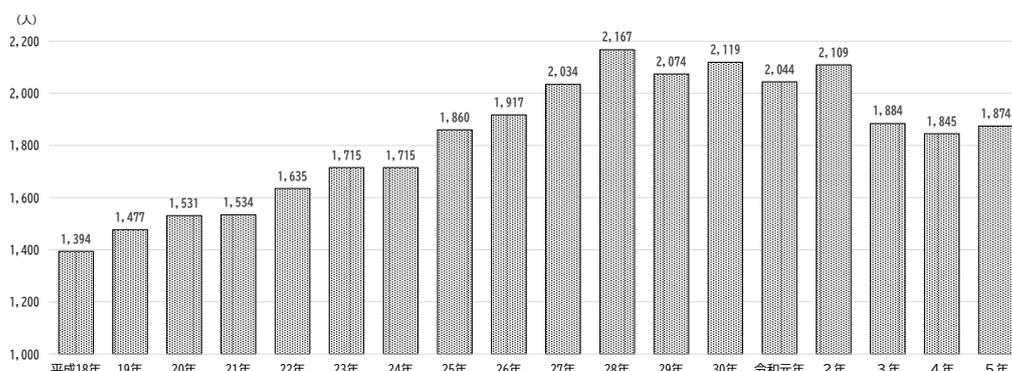
【図表】3-6 合計特殊出生率の推移



資料：ぶんきょうの保健衛生

令和5年は人口動態統計（全国・東京都）、東京都保健医療局人口動態統計（文京区）

【図表】3-7 出生数の推移



資料：文京の統計（文京区）

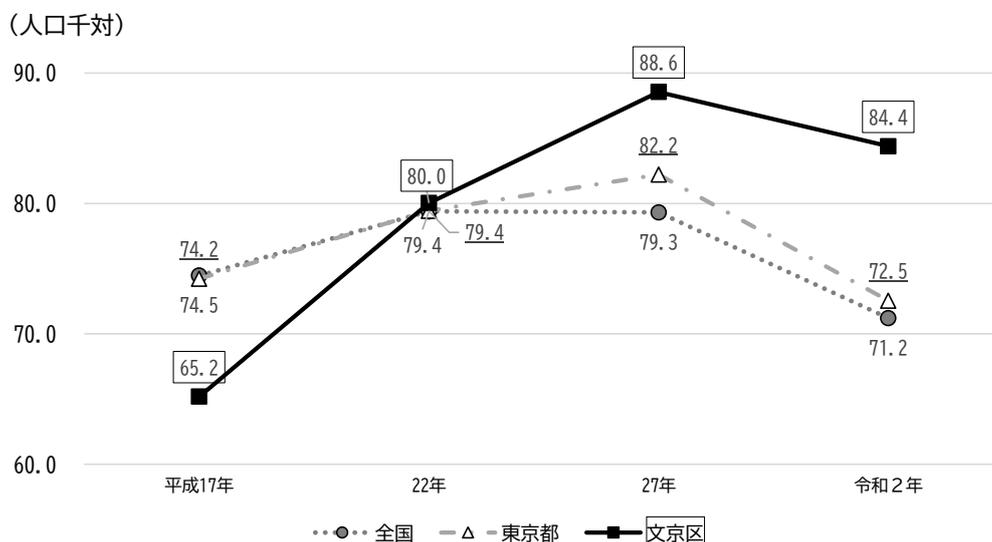
⁶ 合計特殊出生率 15歳～49歳の女性の年齢ごとの出生率を合計したもので、一人の女性が一生の間に生む子どもの数を推計したものの。

また、結婚や出産は個人の自由な意思決定に基づくものであり、ライフスタイルの多様化が進む現代において、出生率を多角的に捉えることが子ども・子育て支援施策を進める上で大切な視点となっています。

その一つとして、婚姻状態に基づき出生動向を分析すると、婚姻している女性に対する出生数の割合は、令和2年は東京都が72.5%⁷、文京区が84.4%となっており、特に文京区は全国の71.2%を大きく上回っています。

合計特殊出生率は、就学や就職を機に若年層が都市部に流入する影響を受けるため、都市部で特に低くなる傾向があります。これに対して、配偶者を有する女性に対する出生数の割合は異なる推移を示し、都市部で相対的に高くなっています。

【図表】3-8 婚姻している女性に対する出生数の割合の推移



資料：国勢調査、人口動態調査

⁷ % (パーミル) 千分率。0.001を1%とする表記。

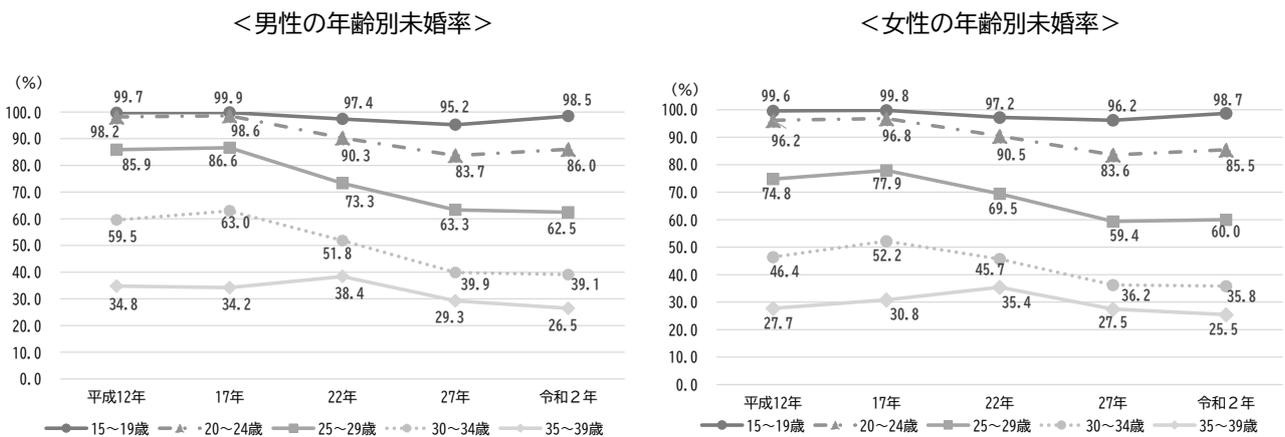
イ 年齢階級別未婚率の推移及び婚姻数の推移

未婚率は男女ともに減少

文京区における令和2年の30～34歳の未婚率は、男性で39.1%、女性で35.8%となっており、およそ3人に1人が未婚となっています。いずれも平成12年時点と比べると、全体で未婚割合が減少しています。

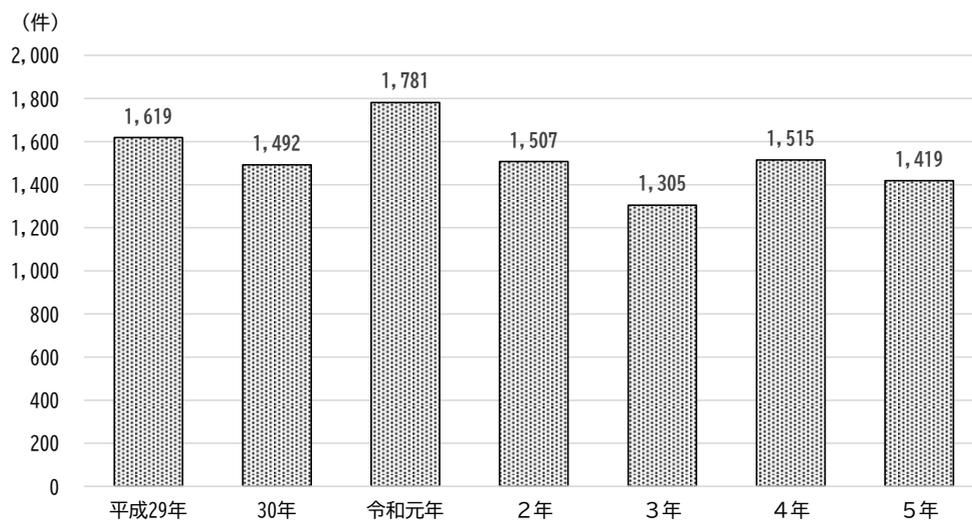
文京区の婚姻数は、増減を繰り返しており、令和5年時点で1,419件となっています。

【図表】3-9 年齢階級別未婚率の推移



資料：国勢調査

【図表】3-10 婚姻数の推移



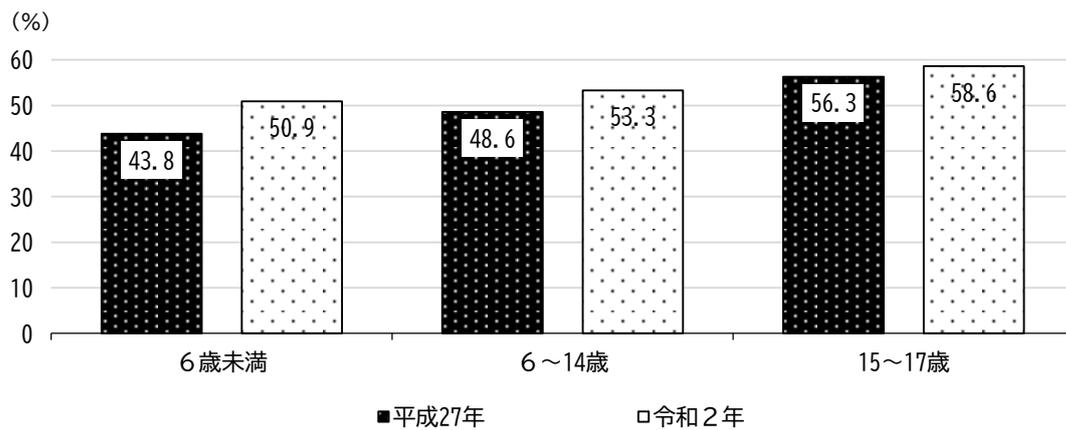
資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

ウ 共働きの世帯の割合（末子年齢別）

平成 27 年と比べて5割台に増加

文京区における令和2年の子どもがいる夫婦の世帯に占める「夫婦とも就業」の世帯の割合は、平成27年と比較して全ての区分で増加しています。特に、6歳未満の未就学児の保護者は、7.1ポイントと大きく増加しています。全体で見ると、末子の年齢が上がるにつれて共働き世帯の割合は増加しています。

【図表】 3-11 共働きの世帯の割合



※ 「子どもがいる夫婦世帯」のうち、夫婦ともに就業している世帯の割合を、末子の年齢ごとに分類して算出。

資料：国勢調査

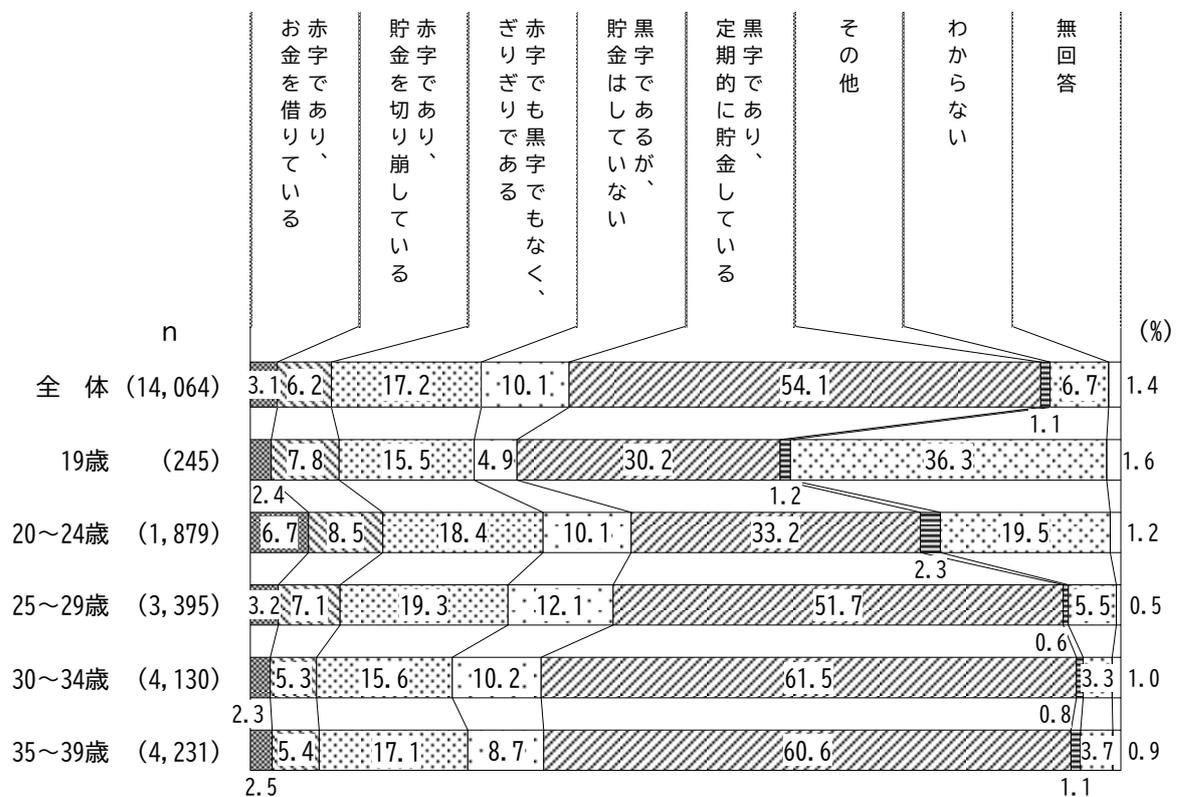
(2) 若者の生活と意識に関する調査結果

ア 家計の状態 **赤字家計が全体の約10%**

家計の状態は、全体で見ると「黒字であり、定期的に貯金している」が54.1%と最も高く、次いで「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」が17.2%、「黒字であるが、貯金はしていない」が10.1%、「わからない」が6.7%となっています。

年齢層別で見ると、「黒字であり、定期的に貯金している」はおおむね年齢層が上がるにつれて高くなり、30歳代では6割台となっています。「赤字であり、貯金を切り崩している」及び「赤字であり、お金を借りている」は20～24歳で他の年齢層よりもやや高くなっています。

【図表】 3-12 家計の状態



資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）

イ 国や自治体に求める結婚支援、パートナーシップに関する支援

経済的支援を求める回答が多数

国や自治体に求める結婚支援、パートナーシップに関する支援は、全体でみると「住まいや暮らしへの経済的支援」が50.3%と最も高く、次いで「雇用や収入の安定化を目指した施策」が37.5%、「出会いの場や機会を創出するための支援」が22.2%となっています。また、「特にない」は28.3%となっています。

年齢層別でみると、「住まいや暮らしへの経済的支援」は20歳代で5割台となっています。「特にない」はいずれの年齢層でも2割台から3割台となっています。

【図表】3-13 国や自治体に求める結婚支援、パートナーシップに関する支援

		回答数 (n)	住まいや暮らしへの経済的支援	雇用や収入の安定化を目指した施策	出会いの場や機会を創出するための支援	結婚やパートナーシップに関する情報の提供	出費の記録やパートナーシップに関するサポート	出会いの場や機会を創出するための支援	公的相談所や公的相談会の開設	その他	特にない	無回答
単位：%												
全体		5,956	50.3	37.5	22.2	15.6	13.4	7.1	2.6	28.3	2.7	
年齢層別	19歳	181	45.9	39.2	18.8	13.8	6.6	4.4	2.8	33.1	2.8	
	20～24歳	1,439	52.3	41.7	18.3	12.7	9.6	5.5	1.5	28.1	2.8	
	25～29歳	1,917	56.3	38.8	21.0	16.0	12.4	5.9	2.1	25.2	2.3	
	30～34歳	1,385	46.4	32.7	24.5	17.2	16.8	8.4	3.3	30.0	2.3	
	35～39歳	957	42.7	35.0	27.8	17.0	17.5	10.4	3.8	30.9	3.1	

資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）

ウ 子どもの人数及び理想の子どもの人数

理想と現実のギャップ

子どもの人数は、全体でみると「1人」が58.4%と最も高く、次いで「2人」が35.0%、「3人」が5.3%となっています。

年齢層別でみると、「2人」は年齢層が上がるにつれて高くなり、35～39歳で43.2%となっています。

それぞれの世帯収入の回答を比較しても、傾向に差異は見られません。

【図表】3-14 子どもの人数

		回答数 (n)	1人	2人	3人	4人以上	無回答
単位：%							
全体		3,947	58.4	35.0	5.3	0.7	0.6
年齢層別	19歳	0	-	-	-	-	-
	20～24歳	9	88.9	11.1	0.0	0.0	0.0
	25～29歳	242	88.4	8.7	1.7	0.0	1.2
	30～34歳	1,348	71.1	25.7	2.6	0.1	0.4
	35～39歳	2,315	48.0	43.2	7.4	1.0	0.4
世帯収入別	100万円未満	16	56.3	31.3	-	6.3	6.3
	100～300万円未満	26	57.7	30.8	7.7	-	3.8
	300～500万円未満	108	60.2	34.3	4.6	0.9	-
	500～700万円未満	242	64.5	29.3	6.2	-	-
	700～1,000万円未満	562	60.3	33.6	5.5	0.4	0.2
	1,000～1,500万円未満	1,233	61.8	32.8	4.5	0.6	0.3
	1,500～2,000万円未満	830	57.5	36.3	5.5	0.5	0.2
	2,000万円以上	724	50.1	42.7	5.9	0.8	0.4
	わからない	146	61.6	26.7	8.2	1.4	2.1

資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）

理想の子どもの人数は、全体で見ると「2人」が46.7%と最も高く、次いで「0人」が18.9%、「3人」が16.5%、「1人」が13.1%となっています。

年齢層別で見ると、いずれの年齢層でも「2人」が最も高く、25～29歳で50.1%となっています。一方、「0人」は19歳で31.7%と高く、年齢層が上がるにつれて低くなっています。

世帯収入別で見ると、「0人」は500万円未満の世帯で高くなっており、「1人」は1,000～1,500万円未満が14.6%と高く、「2人」は1,000万円以上で5割台となっています。

【図表】3-15 理想の子どもの人数

		回答数 (n)	0人	1人	2人	3人	4人以上	無回答
単位：%								
全体		12,269	18.9	13.1	46.7	16.5	2.0	2.9
年齢層別	19歳	186	31.7	9.1	41.4	13.4	1.1	3.2
	20～24歳	1,487	25.6	10.6	45.1	14.1	1.5	3.1
	25～29歳	2,942	19.7	12.8	50.1	13.3	1.4	2.8
	30～34歳	3,735	17.3	13.4	48.5	16.6	2.0	2.3
	35～39歳	3,773	16.4	14.5	43.6	20.1	2.7	2.8
世帯収入別	100万円未満	418	28.5	10.3	38.3	16.7	1.9	4.3
	100～300万円未満	595	34.3	8.6	38.0	13.8	1.8	3.5
	300～500万円未満	1,288	30.1	12.6	42.5	11.1	1.1	2.6
	500～700万円未満	1,559	25.7	13.9	42.6	13.2	1.7	3.0
	700～1,000万円未満	1,870	18.6	14.3	47.1	15.8	1.5	2.7
	1,000～1,500万円未満	2,648	11.5	14.6	52.1	17.8	2.0	2.0
	1,500～2,000万円未満	1,483	8.4	13.2	54.1	20.2	2.4	1.6
	2,000万円以上	1,215	8.6	11.6	50.6	24.5	3.0	1.6
わからない	975	28.5	13.1	38.9	12.6	2.5	4.4	

資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）

3 困難を抱える若者を取り巻く状況

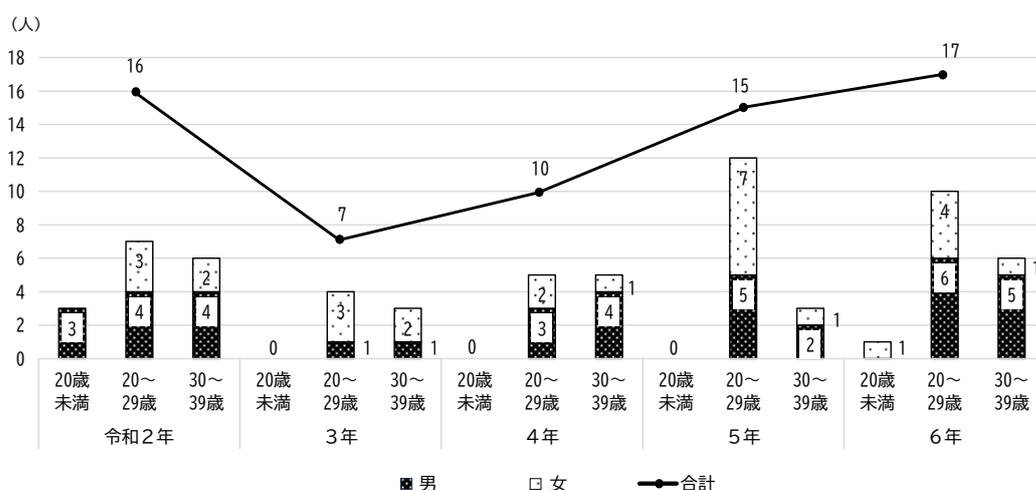
(1) 国・都・文京区の統計

ア 自殺者数の推移

過去5年間で令和6年が最多

文京区の自殺者数の推移をみると、令和3年に一時的に減少した若者の自殺者数は、その後増加傾向にあり、令和6年には17人となっています。自殺者は、男性の方が多い傾向がみられます。

【図表】3-16 自殺者数の推移



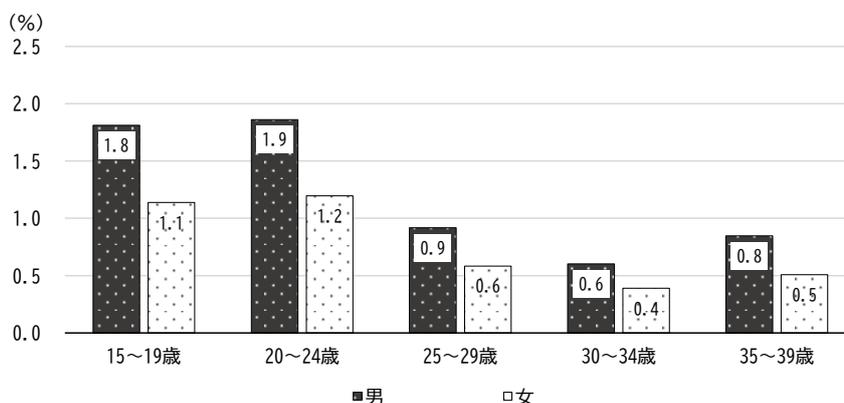
資料：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

イ 15～39歳における無業状態の割合の推移

15～24歳で多い傾向

文京区の15～39歳における無業状態の割合の推移は、15～24歳にかけては男性で約2%、女性で約1%の割合となっています。25～39歳にかけては男女とも1%以下の割合となっています。

【図表】3-17 15～39歳における無業状態の割合の推移



資料：国勢調査（令和2年）

(2) 若者の生活と意識に関する調査結果

ア 外出頻度及び外出状況が現在の状態になった期間

外出頻度が低い層が一定数存在し、その状態が長期化している傾向

外出頻度は、「ほぼ毎日外出する（仕事・学校・遊び含めて）」が71.8%で最も高く、次いで「週に3～4日外出する（仕事・学校・遊び含めて）」が19.7%、「人づきあいや用事のために、週1日程度外出する」が4.2%となっています。

【図表】3-18 外出頻度

	回答数 (n)	ほぼ毎日外出する（仕事・学校・遊び含めて）	週に3～4日外出する（仕事・学校・遊び含めて）	人づきあいや用事のために、週1日程度外出する	いつもは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	家からほとんど出ない	無回答
単位：%							
全体	14,064	71.8	19.7	4.2	1.5	1.1	0.5

上記の表の太枠で囲んだ選択肢を選んだ回答者について、外出状況が現在の状態になった期間は、「3年～5年未満」が26.5%と最も高く、次いで「1年～2年未満」が13.7%、「3か月未満」が12.8%、「2年～3年未満」が12.1%となっています。

【図表】3-19 外出状況が現在の状態になった期間

	回答数 (n)	3か月未満	3か月～6か月未満	6か月～1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	無回答
単位：%										
全体	430	12.8	7.9	10.0	13.7	12.1	26.5	10.0	6.0	0.9

資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）

イ 現在の不安や悩みごと 年齢とともに変化

現在の不安や悩みごとは、全体で見ると「将来のこと」が68.2%と最も高く、次いで「仕事のこと」が52.3%、「家の経済状況」が34.5%、「自分の健康や病気のこと」が26.8%、「子どもの園・学校や将来のこと」が23.9%となっています。

年齢層別で見ると、「将来のこと」は20歳代で7割台半ばとなっています。「仕事のこと」は25歳以上で5割台となっています。「家の経済状況」、「自分の健康や病気のこと」、「子どもの園・学校や将来のこと」、「家族（パートナーを含む）の健康や病気のこと」などは年齢層が上がるにつれて高くなり、「子どもの園・学校や将来のこと」は35～39歳で41.9%と最も高くなっています。一方、「進学、就職のこと」は19歳で74.3%、20～24歳で49.5%、「勉強のこと」は19歳で53.9%と最も高くなっています。

【図表】 3-20 現在の不安や悩みごと

単位：%		回答数（n）	将来のこと	仕事のこと	家の経済状況	自分の健康や病気のこと	子どもの園・学校や将来のこと	家族（パートナーを含む）の健康や病気のこと	家族（パートナーを含む）との関係	好きなことをする時間がな	進学、就職のこと	勉強のこと	外見に関すること	日常的に食事や洗濯など家事をしなければならぬ
全体		14,064	68.2	52.3	34.5	26.8	23.9	20.3	16.4	15.8	13.9	12.5	11.6	10.0
年齢層別	19歳	245	68.2	23.7	20.0	18.4	1.2	7.3	11.8	11.0	74.3	53.9	18.4	2.4
	20～24歳	1,879	73.5	42.5	26.2	18.6	1.5	13.1	11.7	12.3	49.5	29.6	16.9	5.6
	25～29歳	3,395	74.3	55.9	34.1	24.5	10.3	16.4	14.2	12.9	12.6	12.1	11.8	7.7
	30～34歳	4,130	69.2	56.2	36.5	27.2	28.8	20.7	17.2	16.3	5.3	8.5	11.1	10.9
	35～39歳	4,231	60.7	52.5	37.7	32.4	41.9	27.2	19.9	19.7	4.1	6.9	9.2	13.4
単位：%		回答数（n）	交際相手との関係	友だちとの関係	先輩・後輩との関係	近所や地域の人の関係	自分の性別に関すること	インターネット上の人間関係	日常的に家族（パートナーを含む）の介護をしなければならぬ	日常的に兄弟姉妹の面倒を見なければならぬ	その他	特に不安や悩みはない	わからない	無回答
全体		14,064	9.0	6.4	2.8	2.6	1.1	1.0	0.8	0.3	3.3	4.4	0.3	1.6
年齢層別	19歳	245	6.1	16.3	4.5	3.7	3.3	0.8	0.4	0.8	2.4	2.9	-	1.6
	20～24歳	1,879	13.0	12.4	4.9	1.5	2.2	1.6	0.5	0.6	1.9	4.5	0.7	1.2
	25～29歳	3,395	13.9	6.8	3.2	1.4	1.0	1.2	0.6	0.1	2.6	4.6	0.5	1.6
	30～34歳	4,130	8.0	5.1	2.1	3.1	0.9	0.9	0.9	0.2	3.5	4.2	0.2	1.1
	35～39歳	4,231	4.5	3.9	2.0	3.4	0.7	0.8	1.0	0.2	4.4	4.5	0.2	1.3

資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）

ウ 相談先に望むこと **秘密保持と専門家を求める回答が多数**

相談先に望むことは、全体で見ると「秘密が守られる」が66.4%と最も高く、次いで「専門家の人に相談できる」が60.4%、「匿名で相談できる」が54.5%、「曜日や時間を気にせず相談できる」が53.8%となっています。

年齢層別で見ると、いずれの年齢層でも「秘密が守られる」が6割台と最も高く、「専門家の人に相談できる」は年齢層が上がるにつれて高くなっています。

【図表】 3-21 相談先に望むこと

単位：%		回答数 (n)	秘密が守られる	専門家の人に相談できる	匿名で相談できる	曜日や時間を気にせず相談できる	無料で相談できる	SNSやメールで相談できる	自宅から近い場所が自
全体		14,064	66.4	60.4	54.5	53.8	50.5	33.1	29.5
年齢層別	19歳	245	69.0	43.7	66.9	49.4	63.7	47.3	26.5
	20~24歳	1,879	67.6	49.4	59.3	49.7	58.9	38.4	28.0
	25~29歳	3,395	65.4	56.3	53.1	55.9	52.4	32.6	28.8
	30~34歳	4,130	66.7	64.2	53.6	55.3	48.4	33.6	30.1
	35~39歳	4,231	66.7	66.4	53.8	53.2	46.8	30.4	30.4

単位：%		回答数 (n)	同性の人に相談できる	同年代の人に相談できる	電話で相談できる	相談する相手が自宅に	その他	特に望むことはない	無回答
全体		14,064	18.4	16.0	12.8	2.8	2.0	4.9	1.7
年齢層別	19歳	245	33.9	27.8	11.0	2.9	0.8	5.7	1.6
	20~24歳	1,879	24.3	18.8	10.7	1.5	1.6	5.1	1.5
	25~29歳	3,395	20.3	17.1	11.2	2.1	1.3	4.8	1.9
	30~34歳	4,130	17.3	15.8	13.1	2.9	1.9	4.4	1.0
	35~39歳	4,231	14.5	13.6	14.9	3.7	2.6	5.4	1.1

資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）

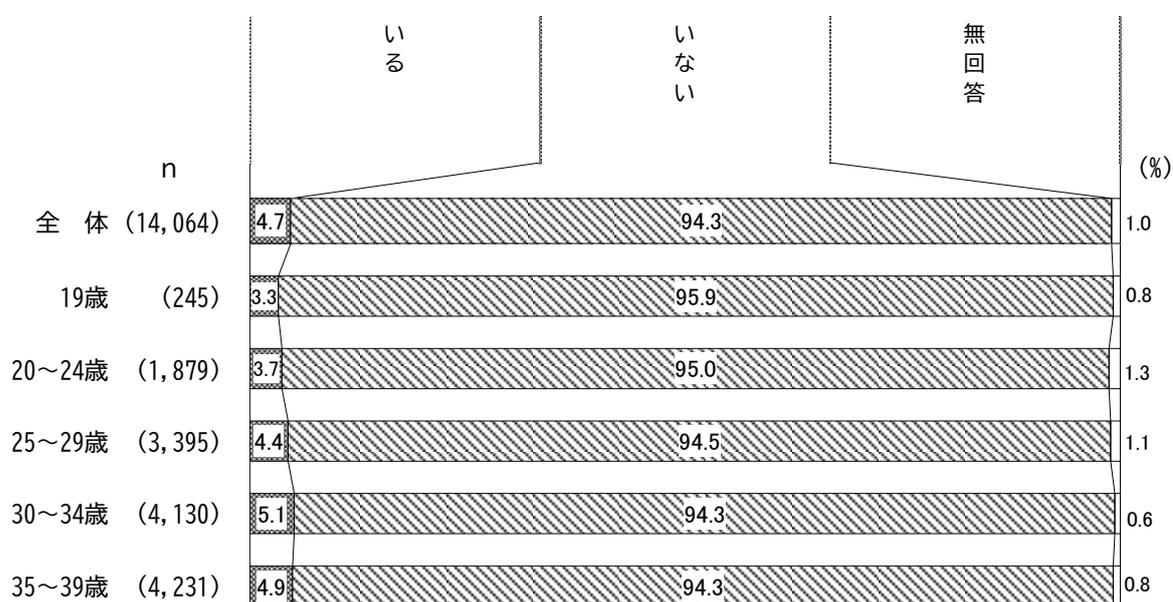
エ 日常的に世話をしている人の有無

日常的に家族の世話をする人が全体の約5%

家族の中に日常的に世話をしている人の有無は、全体で見ると「いない」が94.3%、「いる」は4.7%となっています。

年齢層別で見ると、いずれの年齢層でも「いる」は1割未満となっており、「いない」が9割台半ばとなっています。

【図表】 3-22 日常的に世話をしている人の有無



資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）

オ 働いていない理由 **性別による理由の差異**

働いていない理由は、全体で見ると「育児をするため」が68.9%と最も高く、次いで「家庭内での家事などを専業としているため」が16.6%、「病気、けが、障害があるため」と「心のケアが必要な状況であるため」がともに9.7%となっています。

性別で見ると、「育児をするため」は、女性で75.5%、「働く意欲がわからないため」は男性で31.2%となっています。

【図表】 3-23 働いていない理由

単位：%		回答数 (n)	育児をするため	家庭内での家事などを専業としているため	病気、けが、障害があるため	心のケアが必要な状況であるため	働く意欲がわからないため	どんな仕事につけばいいかわからないため	知識・能力に自信がないため	就職活動中のため	経済的に余裕があるため	人間関係に不安があるため
全体		1,024	68.9	16.6	9.7	9.7	8.8	8.4	8.2	7.4	6.9	6.3
性別	男性	93	9.7	3.2	28.0	28.0	31.2	21.5	19.4	23.7	7.5	14.0
	女性	912	75.5	18.2	7.5	7.8	6.7	6.9	6.9	5.8	6.9	5.4
	どちらとも言えない	2	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-
	わからない	2	-	50.0	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-	50.0
	答えたくない	10	70.0	-	10.0	10.0	-	20.0	10.0	-	-	10.0

単位：%		回答数 (n)	労働条件・環境に関する不安があるため	やりたいことを目指して勉強中・修行中のため	資格試験などの準備のため	希望する職種に求人がないため	独立・開業に向けた準備のため	介護をするため	ボランティアや社会貢献活動に従事しているため	その他	特に理由はない	無回答
全体		1,024	5.5	4.7	3.7	1.7	1.4	1.0	0.3	5.8	-	2.6
性別	男性	93	11.8	15.1	11.8	4.3	4.3	1.1	-	4.3	-	3.2
	女性	912	4.6	3.6	3.0	1.3	1.1	0.9	0.3	5.9	-	2.5
	どちらとも言えない	2	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-
	わからない	2	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-
	答えたくない	10	-	10.0	-	-	-	-	-	10.0	-	-

資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）

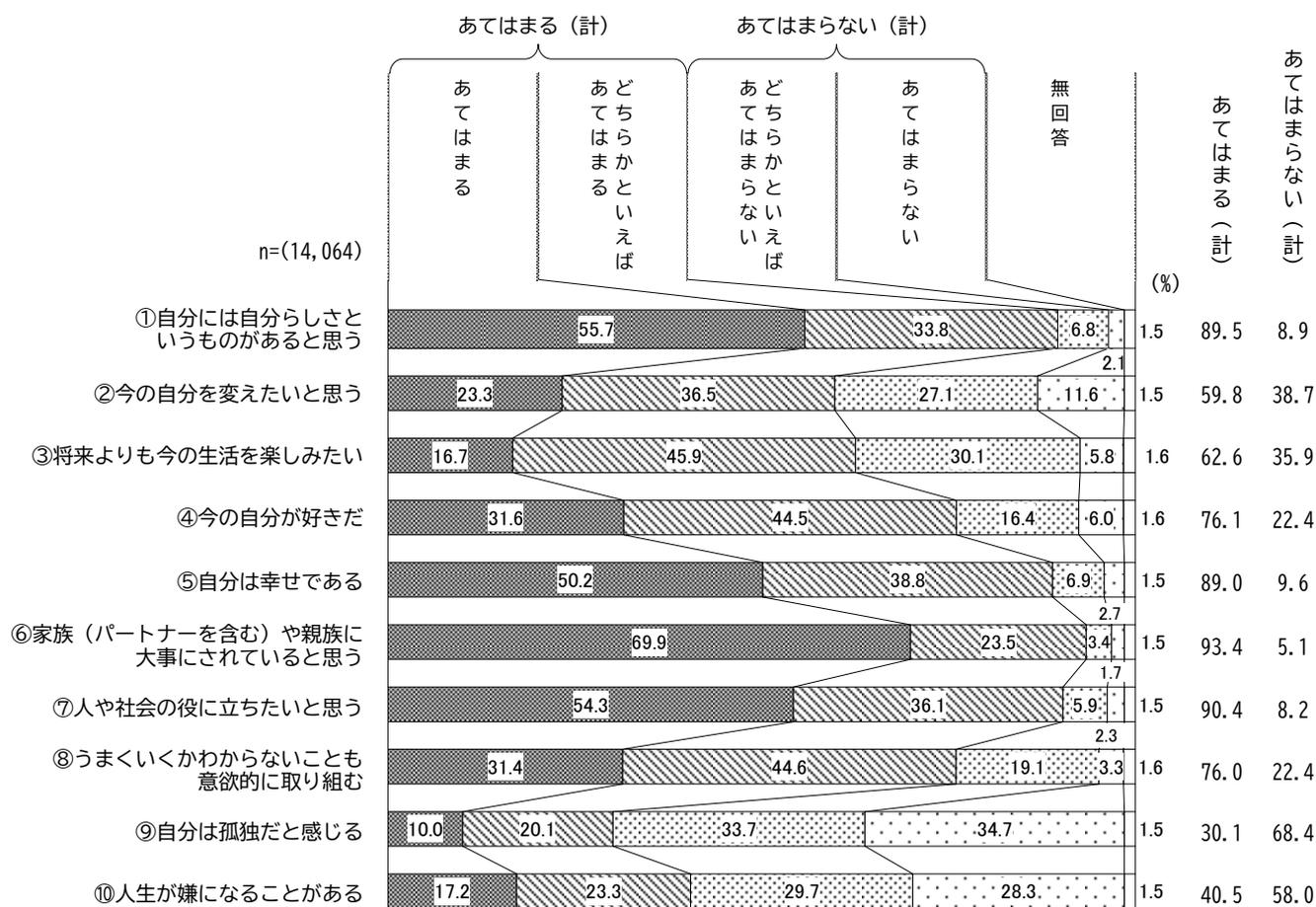
4 若者の自己実現を取り巻く状況

(1) 若者の生活と意識に関する調査結果

ア 自己肯定感等 **孤独を感じる人が約 30%**

自己肯定感等は、「あてはまる（計）」では「家族（パートナーを含む）や親族に大事にされていると思う」が 93.4%と最も高く、僅差で「人や社会の役に立ちたいと思う」が 90.4%と、どちらも9割台となっています。一方、「あてはまらない（計）」では、「自分は孤独だと感じる」にあてはまらない人が 68.4%と最も高く、次いで「人生が嫌になることがある」にあてはまらない人が 58.0%となっており、いずれも肯定的な傾向がうかがえました。

【図表】 3-24 自己肯定感等



資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）

イ 安心できる居場所に必要なこと

集中できる場所を求める回答が多数

安心できる居場所に必要なことは、全体でみると「静かに勉強や読書ができる場所」が57.6%で最も高く、次いで「緑がある公園や広場」が52.1%、「気軽に話ができる場所」が48.7%、「文化や芸術（音楽、美術、料理など）に関する活動ができる場所」が34.6%となっています。

年齢層別でみると、いずれの年齢層でも「静かに勉強や読書ができる場所」は5割以上となっています。「緑がある公園や広場」は30歳代で5割台半ば、「気軽に話ができる場所」は24歳以下で5割台と高くなっています。「ゲームやパソコンができる場所」は19歳で30.2%、20～24歳で23.6%と高くなっています。

【図表】 3-25 安心できる居場所に必要なこと

		回答数 (n)	静かに勉強や読書ができる場所	緑がある公園や広場	気軽に話ができる場所	文化や芸術（音楽、美術、料理など）に関する活動ができる場所	いろいろなスポーツができる体育館や運動場	ひとりでも安心して、家族（パートナーを含む）や友達には話せない悩みの相談ができる場所	ゲームやパソコンができる場所	年齢の人たちと触れ合えるいろいろな場所	その他	特にない	無回答
単位：%													
全体		14,064	57.6	52.1	48.7	34.6	25.2	18.0	17.6	10.0	3.1	3.6	1.6
年齢層別	19歳	245	60.0	41.6	54.7	28.6	26.9	18.8	30.2	8.2	4.1	3.3	2.9
	20～24歳	1,879	57.2	44.0	52.6	32.8	22.8	19.4	23.6	8.4	2.8	3.5	1.3
	25～29歳	3,395	56.5	48.2	49.3	35.5	23.4	17.6	17.1	7.9	2.3	3.3	1.4
	30～34歳	4,130	57.6	55.3	48.1	34.7	25.4	17.7	16.5	9.8	3.2	3.8	1.1
	35～39歳	4,231	58.9	56.8	47.4	35.0	27.7	18.2	15.7	13.1	3.9	3.7	1.2

資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）

ウ 社会参加活動の種類及び不参加の理由 **多くの人が不参加**

社会参加活動の種類は、「特に、社会参加活動はしていない」が68.0%と最も高く、次いで「子どもに関する活動」が12.7%、「町会・自治会などが行う、地域のお祭りやイベントに関する活動」が11.4%となっています。

【図表】3-26 社会参加活動の種類

	回答数 (n)	子どもに関する活動	町会・自治会などが行う、地域のお祭りやイベントに関する活動	文化や芸術(音楽、美術、料理など)を通じた交流活動	スポーツを通じた交流活動	オンラインでの交流(オンラインイベント、オンラインセミナーなど)	町会・自治会などが行う、地域の清掃、防犯、防災などに関する活動	国際交流イベントなど外国人を支援する活動	高齢者や障害者に関する活動	その他	特に、社会参加活動はしていない	無回答
単位：%												
全体	14,064	12.7	11.4	5.7	4.9	3.1	2.6	1.5	0.6	1.0	68.0	3.4

社会参加活動に不参加の理由は、「日々の生活が忙しく、時間的余裕がないから」が55.9%と最も高く、次いで「地域でどのような活動が行われているのかわからないから」が48.9%、「参加方法がわからないから」が35.1%、「関心がないから」が32.1%となっています。

【図表】3-27 社会参加活動に不参加の理由

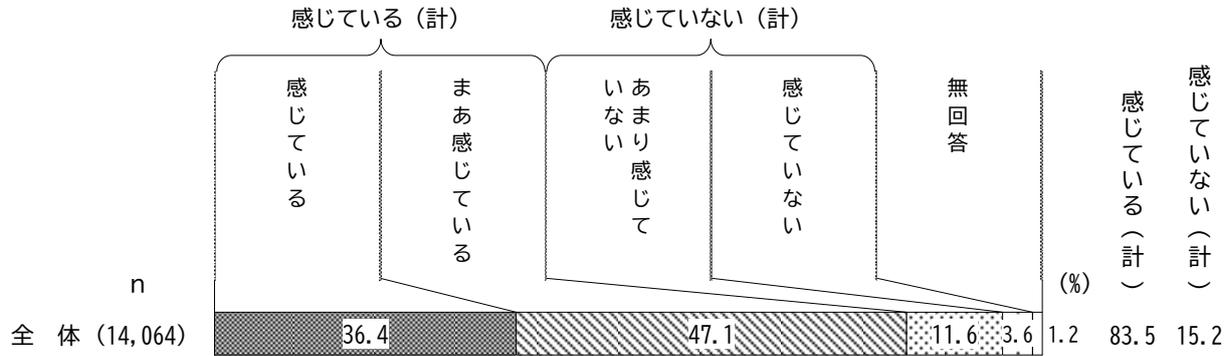
	回答数 (n)	日々の生活が忙しく、時間的余裕がないから	地域でどのような活動が行われているのかわからないから	参加方法がわからないから	関心がないから	一緒に参加する知人・友人がいないから	活動の時間や日程が合わないから	必要性を感じないから	手付き合いや人間関係が苦	経済的余裕がないから	地域の活動が盛んではないから	その他	無回答
単位：%													
全体	9,570	55.9	48.9	35.1	32.1	27.6	23.6	21.5	21.1	10.5	5.9	2.6	0.3

資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）

エ 地域への愛着の有無及び愛着を感じるところ **愛着を感じる人が80%以上**

地域への愛着の有無は、「感じている（計）」が83.5%、「感じていない（計）」が15.2%となっています。

【図表】3-28 地域への愛着の有無



地域に愛着を感じる場所は、「治安がよく、安全で安心して生活できる場所」が85.7%と最も高く、次いで「交通の便が良く、移動が快適で便利なお店や商店街がある場所」が67.2%、「住んでいる人のマナーが良く、安心して暮らせる環境が整っている場所」が60.0%となっています。

【図表】3-29 地域に愛着を感じる場所

回答数 (n)	治安がよく、安全で安心して生活できる場所	交通の便が良く、移動が快適な場所	住んでいる人のマナーが良く、安心して暮らせる環境が整っている場所	街がきれいな場所	公園や庭園が多く、自然を身近に感じられる場所	にぎやかな場所と閑静な住宅街がある場所	教育機関が充実しており、学びの環境が整っている場所	あり、日常のお店や商店街がある場所	歴史的建造物や史跡・旧跡が多く、地域の歴史を感じられる場所	
全体	11,752	85.7	67.2	60.0	54.9	28.9	27.2	26.9	25.4	20.2

回答数 (n)	住んでいる人がやさしく、親切な場所	子ども・子育て支援が充実している場所	生まれ育ったまちであり、思い出や愛着が深い場所	美術館・博物館などの文化施設が充実し、知識や芸術を楽しむことができる場所	地域のお祭りやイベントがある場所	文化が暮らしに活かされている場所	地域の人々が協力し合い、コミュニケーションの一体感を感じられる場所	その他	無回答	
全体	11,752	20.1	19.4	14.3	13.8	12.5	12.0	6.9	1.5	0.3

資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）

オ 区の施策等への意見を伝える方法・手段

アンケート形式を求める回答が多数

区の施策等への意見を伝える方法・手段は、全体で見ると「アンケートに答える」が 53.7%と最も高く、次いで「伝えた意見がどのように反映されるのかわかる」が 49.3%、「SNSを使って意見を伝える」が 45.7%となっています。

年齢層別で見ると、いずれの年齢層でも「アンケートに答える」が最も高く、35～39歳で 56.3%となっています。「SNSを使って意見を伝える」は 24歳以下で約5割と高くなっています。

【図表】 3-30 区の施策等への意見を伝える方法・手段

		回答数 (n)	アンケートに答える	伝えた意見がどのように反映されるのかわかる	SNSを使って意見を伝える	自分のことが公開されない(秘密が守られる)	区のホームページから意見を送る	意見を伝えることでクーポンや謝礼などをもらえる	意見を伝える相手がどのような人か事前にわかる	同年代が集まる会議やワークショップなどで意見交換しながら伝える	その他	無回答
単位：%												
全体		14,064	53.7	49.3	45.7	41.2	32.0	28.2	19.7	11.0	1.5	3.1
年齢層別	19歳	245	50.2	44.9	49.8	49.0	32.2	30.6	20.4	11.8	2.0	4.5
	20～24歳	1,879	50.5	45.0	49.3	42.0	31.2	34.2	19.4	10.6	0.8	3.5
	25～29歳	3,395	52.3	48.0	43.0	39.4	28.7	31.0	18.9	10.8	1.4	2.9
	30～34歳	4,130	54.3	51.6	47.3	40.4	32.8	28.1	19.6	10.6	1.3	2.8
	35～39歳	4,231	56.3	50.4	45.1	42.4	34.4	23.6	20.4	11.7	2.1	2.4

資料：若者の生活と意識に関する調査（文京区）